

## 学校評価アンケート 保護者 考察 ※児童との比較も合わせて

◇児童数 297 人に対し、保護者からは 269 人分の提出があった。提出率は 90.5%で昨年度の 98.4%と比較すると 7.9%減少している。原因は管理職や担任による、提出の呼びかけが不足したことと思われる。今年度、評価項目に参考 3、参考 4 を追加した。

### 1 子どもは、学校で楽しく過ごしている。

「そう思う」「大体そう思う」を含めると、保護者 94%、児童 91%が良好ととらえている。保護者数と児童数が近似していることより、保護者の判断は児童の声を反映していることがわかる。そう思わないと回答した児童が 5%増加したことを教職員全員で認識し、児童一人一人の様子を注意深く観察していく。

### 2 子どもは、学習の基礎・基本(読み・書き・計算など)が身についている。

82%の保護者が良好ととらえており、昨年度の 83%と大きな変化はないが、「そう思わない」が約 18%で昨年度より 2%増加している。全国学力学習状況調査の数値も学力低下を示していることから、家庭と連携して学習の基礎基本の習得を目指していく。

### 3 子どもは、宿題や家庭学習の学習習慣が身についている。

保護者の 72%が良好ととらえているが、昨年度より 4%減少している。3年連続減少傾向であるため、前項の基礎基本定着と共に、家庭との連携を深めていく必要がある。

### 4 子どもは、あいさつや時間を守るなどの基本的な生活習慣が身についている。

保護者の 82%が身に付いていると感じており、昨年度とほぼ同じである。しかし、学校での児童の実態を見ると、自分から挨拶ができなかったり、受けた挨拶を返せない児童も少なくない。挨拶の大切さを伝えたり、挨拶をする心地よさを体験させたりして、自らすすんで挨拶できる児童を増やしたい。

### 5 子どもは、人の気持ちを理解した言動がとれている。

保護者の 87%が人の気持ちを理解した行動が取れていると感じており、昨年度とほぼ同じであるが、心無い一言からトラブルに発展するケースも多々あった。自分との違いを認め、受け入れ合える人間関係を育てなければならない。

### 6 子どもは、学校行事(運動会、歌声発表会、持久走大会、校外学習)に意欲的に参加している。

保護者の 97%が良好ととらえており、アンケートの中で意識がいちばん高い結果となった。子ども達のがんばる姿を保護者が感じ取っているのであろう。本番だけでなく取り組み期間の活動を今後でも重視し、子ども達自身が成長を実感できる取り組みとしていく。

### 7 子どもは、非常災害時の避難行動がわかっている。

91%の児童が良好であると回答したが、保護者は 85%と意識の差が見られた。児童は、地震と火事を想定した避難訓練を数多く体験し、第 1 次、第 2 次避難行動が概ねできるようになっている。課題は教室以外の場所からの避難、停電時における避難、不審者対応避難等がある。学校の取り組みを保護者・地域に学校便り・学年便り・HP を活用して発信して理解と協力を得ていきたい。

### 8 学校は、子どもの話を聴こうとしている。

保護者の 84%が良好ととらえており、昨年とほぼ同じである。学校では定期的に、「楽しい学校生活を送るためのアンケート」や「いじめアンケート」を実施したり、面談したりして、指導に当たっている。今後も管理職や関係職員の報告・連絡・相談を密にすると共に、働き方改革で生み出した時間を子どもに接する時間に当てていく。

## 9 学校は、子どものことについて連絡や相談をした際に丁寧に対応している。

保護者の90%が良好ととらえており、昨年とほぼ同じである。日々誠実な対応を心掛けてきた教職員には嬉しい数値である。今後も誠実で丁寧な対応をすすめ、本当に保護者や子どもの気持ちや事実を正しく把握しているのかを慎重に判断していく。

## 10 学校は、子どもの安全や事故防止に力を入れている。

保護者の89%が良好ととらえている。学校では、4月に、「交通安全教室」を開催し、安全な道路の歩き方や自転車の乗り方について繰り返し指導してきた。また、不審者情報の際は、連絡メールを流すと共に、必要に応じて教職員による学区パトロールを実施してきたので継続していく。

## 11 学校は、地域行事に協力的である。

今年度も、産業まつり、湖北台サンバ、新春マラソン等、地域行事に参加し地域交流を進めてきた。また、校庭・体育館は、学校の学習や行事に支障のない範囲で開放している。保護者の74%が良好と捉えているが、「学校はやってもらうばかりだ」と受け取られないよう、全教職員で対応していく。

## 12 学校の様子を学校・学年だよりやホームページ、懇談会等で知ることができる。

保護者の86%が良好ととらえており、「そう思わない」「わからない」が7%減少した。今後も保護者の知りたい情報を把握し、適切な時期に掲載できるようにしていく。

### 参考1 学校のホームページを閲覧する。

「よく閲覧している」は37%で昨年より6%向上し、「そう思わない」や「わからない」が7%減少した。HPを学校学年行事に合わせて、頻繁に更新していることが向上の一因であろう。今後も保護者・地域が知りたい情報の発信していく。

### 参考2 子どもは、本に親しんでいる。

良好は50%で、昨年度より5%減少した。「家庭学習や読書を進んで行っている」と回答した児童も64%で、15%減少している。毎日の朝読書時間の充実させると共に、今年度整備した図書館の有効活用をすすめる。

### 参考3 夜間休日の自動音声電話対応の導入によって、緊急時連絡が市役所への電話となったことに、不都合は感じていない。

「そう思う」「大体そう思う」の合計は47%。「あまりそう思わない」「思わない」の合計は26%である。約半数が不都合は感じていないが、学校から家庭に連絡した返信電話に対する対応には気を配らなくてはいけない。

### 参考4 今年度、家庭訪問の形態を変更したことについて、不都合は感じていない。

「そう思う」「大体そう思う」の合計は82%。「あまりそう思わない」「思わない」の合計は13%である。担任と個人的に話をしたいという保護者の要望にも答えることのできる形態で実施する必要がある。